

第1号議案 平成19年度事業報告(案)及び決算報告(案)承認の件

I. 平成19年度事業報告(案)

平成19年度事業計画に従い、皆様のご支援・ご協力のもと、公益法人として、これまで以上に会員に役に立つサービスが提供できる学会に発展させるべく、会誌出版・講演会・セミナー・シンポジウム・キャンパスビジット・研究開発コンソーシアム等を実施しました。推進してきたWEBを活用した学術講演会の運営、会誌の電子ジャーナル化も着々と成果を上げてきております。また、一層の国際化を進めるべく、海外関連学会との関係を拡大・強固にするとともに、会誌の共同出版を継続いたしました。

さらに、会員へのサービスの拡大を図るため、事務局を都心に近くかつ駅に近い現在地へ移転したことにより、理事会、運営幹事会、各種委員会等を事務局で開催し、それによって、学会活動の情報が事務局に集中し、機動的な学会運営を図ることが可能になり、かつ、会員の皆様が気軽に事務局を訪れ、意見交換することができる場となってまいりました。

以下、平成19年度の活動状況の詳細についてご報告いたします。

1. 学会事業活動

1) 研究発表会、講演会等の開催

以下に示す講演会、セミナー、講習会、シンポジウム等を実施した。

第116回学術講演会

開催日 平成19年5月28日(月)～5月30日(水)

開催場所 早稲田大学(東京)

特別講演 2件

- ・「石油開発において地質屋が物理探査に期待するもの
ー物探的思考法と地質的思考法ー」 中山一夫(株地球科学総合研究所)
 - ・「金属資源探査の最新情報と物理探査への期待」 岡田和也(住友金属鉱山(株))
- 一般講演：口頭発表 60題 ポスター発表 13題 参加者 257名

第117回学術講演会

開催日 平成19年10月6日(土)～10月8日(月)

開催場所 北海道大学理学部(札幌)

特別講演 3件

- ・「新公益法人制度の紹介と物理探査学会への提言」 五十嵐邦彦(物理探査学会監事)
- ・「アイヌのクマ文化を探査する」 天野哲也(北海道大学総合博物館教授)
- ・「永久凍土地帯の天然ガスパイプラインの現状と今後の課題」
赤川敏(北海道大学大学院工学研究科教授)

一般講演：口頭発表 85題 ポスター発表 14題 参加者 168名

物理探査セミナー

開催日 平成19年6月20日(水)～6月22日(金)

開催場所 産総研臨海副都心センター(東京) 参加者 55名(延112人日)

SEG DISC

開催日 平成19年4月2日(月)

開催場所 産総研臨海副都心センター(東京) 参加者 49名

SEG Spring 2008 Distinguished Lecture

開催日 平成20年1月21日(月)

開催場所 京都大学桂キャンパス(京都) 参加者 35名

開催日 平成 20 年 1 月 22 日 (火)	
開催場所 (財) 深田地質研究所(東京)	参加者 21 名
斜面講習会 平成 19 年度 2 回開催	
開催日 平成 19 年 6 月 5 日 (火)、及び 12 月 19 日 (水)	
開催場所 福岡、及び広島	参加者 112 名
ワンデーセミナー	
開催日 平成 20 年 2 月 1 日 (金)	
開催場所 産総研臨海副都心センター	
テーマ 「インバージョン解析」	参加者 83 名
キャンパスビジット	
開催日 平成 19 年 10 月 19 日 (金)	
開催場所 横浜国立大学工学部	
テーマ 資源工学・土木工学に係る物理探査法	参加者 15 名
技術キャラバン	
開催日 平成 19 年 10 月 9 日 (火)	
開催場所 電力中央研究所	
テーマ 物理検層入門及び岩石力学への応用」	参加者 20 名
シンポジウム	
開催日 平成 19 年 10 月 31 日(水)	
開催場所 東京大学山上会館	
テーマ 「中越沖地震の震源と強震動の理解に物理探査が如何に貢献できるか」	
	参加者 128 名

2) 会誌発行

平成 19 年度は、学会誌「物理探査」Vol.60 No.1～No.6 の 6 冊を発行した。そのうち Vol.60 No.1 は豪州物理探査学会(ASEG)・韓国物理探査学会 (KSEG) との共同出版。また、学会誌の内容改革を継続するとともに、論文集原稿の電子投稿、処理、並びに会誌原稿の電子投稿、印刷所への電子入稿等を可能にした。

また、平成 19 年度に J-Stage において先ずは学会誌 Vol.58 を公開、他の Vol についても準備が、出来次第順次公開していく予定。

ニュースレターは当学会の創立 60 周年の平成 20 年度にニュースレターの印刷物を発行する計画とし、平成 19 年度はニュースレター委員会を立ち上げる準備を始めた。

3) 出版物の頒布

(1) 物理探査ハンドブック	58 冊
(2) 物理探査適用の手引き(特に土木分野への利用)	29 冊
(3) 物理探査適用の手引き(英文)	40 冊

(1)～(3)の出版物について上記冊数を頒布した。

4) コンソーシアム活動

コンソーシアム活動は、特定の目的に対して期間を定め集中して調査・研究開発および関連の受託業務を行うものであり、平成 19 年度は下記を行った。

(1)業務受託活動

- ①「物理探査活動データベースにかかるアンケート調査並びにデータ整理作業」
(独) 産業技術総合研究所から標記業務を受託、実施した。この業務は、今後継続して受託できる見通しである。
- ②「河川堤防の統合物理探査適用マニュアル素案検討業務」
(独) 土木研究所から標記業務を受託、実施した。

5) 研究会活動

研究会とは、物理探査技術の特定の目的に対して学会員の有志によって広く継続的に研究を行う集まりであり、地盤探査研究会、電気探査研究会、地震防災研究会の3研究会がある。平成19年度は以下のとおり、計5回の講演会、シンポジウムを実施した。

第3回地震防災シンポジウム（地震防災研究会・地盤探査研究会合同）

平成20年1月25日（金）於）早稲田大学国際会議場

電気探査研究会講演会

平成19年4月20日（金）於）JOGMEC 川崎本部会議室

平成20年1月29日（火）於）JOGMEC 川崎本部会議室

地震防災研究会講演会

平成19年9月13日（木）於）東京工業大学コンベンションセンター

地盤探査研究会講演会

平成20年1月9日（水）於）早稲田大学大久保キャンパス

6) 研究業績の表彰等

(1) 名誉会員

平成19年度総会において小口雄康氏が名誉会員に推薦された。

(2) 物理探査学会賞

平成19年度総会において物理探査学会論文賞2件を表彰した。

・物理探査学会論文賞

受賞者 薛自求、雷興林、棚瀬大爾、渡辺二郎

対象論文 薛自求、雷興林 「Laboratory study of CO₂ migration in water-saturated anisotropic sandstone, based on P-wave velocity imaging」 物理探査, 59, 1, 10-18, 2006

薛自求、棚瀬大爾、渡辺二郎 「Estimation of CO₂ saturation from time-lapse CO₂ well logging in an onshore aquifer, Nagaoka, Japan」 物理探査, 59, 1, 19-28, 2006

受賞者 高橋明久、柏原功治、溝畑茂治、島田信仁、中山徹、古瀬雅己

対象論文 高橋明久、柏原功治、溝畑茂治、島田信仁、中山徹、古瀬雅己 「オイルサンド貯留層三次元地質モデルの構築」 物理探査, 59, 3, 233-244, 2006

(3) 学会運営功績賞

平成19年度総会において長期にわたる日豪韓共同出版の編集の功績により下記博士を表彰した。

・受賞者：Lindsay Thomas 博士（豪州物理探査学会編集長）

(4) 永年在籍表彰

平成19年度総会において正会員10名（大久保彪、小山史郎、菊地芳朗、栗本廣、小池一正、富重俊夫、早川福利、古川博恭、松野文夫、渡辺皓三）、賛助会員3社（30年表彰：株式会社物理計測コンサルタント、ペトロサミット・インベストメント株式会社、及び、50年表彰：石油資源開発株式会社）をそれぞれ表彰した。

(5) 優秀発表賞

平成19年度の春季および秋季学術講演会における優秀発表賞として、116回については117回秋季学術講演会において表彰、117回の優秀発表賞については平成20年通常総会において表彰する。

・116回（平成19年度春季）学術講演会

優秀講演賞：鳥居健太郎、鈴木晴彦、山本英和、上田 匠

優秀ポスター賞：先名重樹

・117回（平成19年度秋季）学術講演会

優秀講演賞：辻 健、松島 潤、山田信人、市原 寛、小西千里

優秀ポスター賞：岡崎健治

7) 関連学術団体との連携及び協力

(1) 他学会との講演会協賛

平成17年に加盟した日本地球惑星科学連合の平成19年度の連合大会では、当学会に関連したセッションとして3つが開催された。その他、(社)資源・素材学会、(社)日本リモートセンシング学会、日本地熱学会、(社)日本地震学会、日本応用地質学会、(社)地盤工学会、計測自動制御学会、石油技術協会等、関係の深い学会と講演会等で互いに後援・協賛をした。

(2) 継続教育活動支援システムについて他学会との協同運営

平成19年度は、事業委員会が中心になって技術士継続教育について、関係7学協会と連携して生涯学習支援システムの共同運営を継続した。

(3) 国際惑星地球年への参加

国際惑星地球年とは、地球の過去・現在・未来を研究する科学者たちの国際組織である国際地質科学連合（IUGS）とユネスコが中心になって推進している国際的プログラムであり、2008年を国際惑星地球年として、地球と人類の維持可能な未来のために地球科学の知識と技術を積極的に活用していこうというものである。

国際惑星地球年日本は、日本におけるその活動を実りあるものとするために具体的な活動を進める組織であり、当学会も平成19年12月に参加した。

8) 国際交流

関連国際学会との国際交流を推進するために、下記の関連国際学会の講演会・年次総会に参加し、国際交流を深めた。

- ・欧州物理探査学会(EAGE) (6月11日～14日)
- ・米国物理探査学会(SEG) (9月23日～28日)
- ・環境土木物理探査学会 (EEGS) (4月1日～5日)
- ・豪州物理探査学会 (ASEG) (11月18日～22日)
- ・韓国物理探査学会 (KSEG) (6月7日～8日)

9) 臨時委員会

(1) 標準化検討委員会

物理探査の普及と標準化を図るため「物理探査適用の手引き」の全面改訂に取り組み、タイトルを「新版物理探査適用の手引き」として継続活動中である。

(2) IT化改革委員会

学会の活性化を図るため、会員・広報委員会と連携し、学会業務のIT化を推進した。

(3) 創立60周年記念事業委員会

当学会が平成20年に創立60周年を向えるに当たり、創立60周年記念事業委員会を設置し、記念事業に係る企画立案等、その準備を開始した。

10) 広報活動

ホームページの全面改訂、会員の情報交換を加速するための会員専用イントラネットの構築、WEB改革に取り組んだ。

2. 学会の経営・運営に関する会議の開催

1) 通常総会

平成 19 年 5 月 29 日（火）、東京 早稲田大学国際会議場にて開催。

2) 理事会

平成 19 年度中に 6 回開催した。（平成 19 年 4 月、6 月、9 月、11 月、平成 20 年 1 月、3 月）

3) 運営幹事会

平成 19 年度中に 4 回開催した。（平成 19 年 7 月、10 月、12 月、平成 20 年 2 月）

4) 評議員会

平成 19 年度中に 2 回開催した。

1 回目：開催日 平成 19 年 9 月 25 日（火）

開催場所 東京大学山上会館

2 回目：開催日 平成 20 年 3 月 11 日（火）

開催場所 東京大学工学部 2 号館

3. 会員の状況

会員の現況(平成 20 年 3 月 31 日現在)

	H20.3 末	H19.3 末	増 減
名誉会員	28	27	1 名増
正会員	1416	1433	17 名減
内学生	60	61	1 名減
賛助会員	141 社 299 口	144 社 302 口	3 社、3 口減

職場班 68 班

以上

II. 平成 19 年度決算報告（案）

平成 19 年度は、大変厳しい財政状況を立て直すために、会費の改訂も視野に入れ、思い切った財政改革に取り組みました。

学術講演会はもとより、その他全ての行事に対して可能な限り無駄を省きました。管理費についても徹底的な削減を図りました。なかでも、平成 16 年度から取り組んできた WEB の改革を含めた学会業務の IT 化が実を結び、学術講演会の申し込み受付、論文集原稿の電子投稿、処理、並びに会誌原稿の電子投稿、印刷所への電子入稿等を可能にしたことにより、大幅な経費節減となりました。

これらにより、当学会の財政は、ほぼ健全な状態にまで立て直すことができ、当面は会費の改訂をしなくとも何とか乗り切ることができる見通しとなりました。

これも一重に会員皆様のご協力によるものであり、ここに改めて御礼を申し上げます。

今後とも、精力的に財政改革に取り組む所存でおりますので、皆様のなご一層のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。